

外国語科・外国語活動

新教材の活用とコミュニケーションの必然性を感じさせる外国語授業

網走市立網走小学校 教諭 熊崎 高士

1. ねらい

- ・小学校新学習指導要領における外国語科・外国語活動について、新教材を通して理解する。
- ・ミニ研修参加者が、自分で研修内容を咀嚼し、自分の言葉で授業実践できるようにする。

2. 研修内容

(1) 新学習指導要領に対応した新教材の特色について

①児童の言いたいことが表現できるよう扱う表現の増加

三人称・過去形・動名詞

三人称の(s/es) 過去形の(ed)など規則動詞は扱わない。児童が話せることを目的にしているため、三人称では、can+原形、過去形では went, ate などの不規則動詞から扱う。規則動詞が原因で苦手意識が芽生えないための方法である。

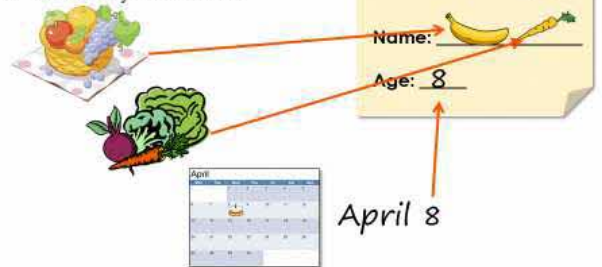
(活動例)

New Identity game!～第三者になりきることで、学んだ表現を積極的に使えるようにする～

- ・第三者の名詞カードを作成する
(名前は好きなフルーツ・苗字は好きな野菜)
- ・できること、できないことを選ぶ (第三者なので自由)
- ・仲間と交流する
- ・誰が何をできるのかを She や He を使って紹介する
→can/can't を使っているため、動詞の語形変化はない

Make a new identity!

1. Listen to your teacher.



②読むこと・書くことの指導の在り方 (読む・書く基礎・読もう、書こうとする姿勢を高める)

- ・4線に文字を書くことができるようにする。
- ・文字を見て、読む(発音する)ことができるようにする。
- ・文字を識別できるようにする。
- ・文字には、「名称 Letters」と「音 Sounds」の2種類の読み方があることに気付く。

(指導例)

A <<文字の認識～書くこと～>>

大文字…A→Zの順番ではなく、線対称の文字、そして直線でできた文字の順に学ばせる。

1. AHIMYVXW (線対称の文字)
2. TFNLKEZ (直線でできた文字)
3. GDBOJCPSQUR (その他)

小文字…小文字の認識には、大文字の認識の3倍の時間がかかると言われている。以下の順が効果的である。

1. c o s v w x z (大文字と同じ形の文字)
2. a e u m n r (一階建ての文字)
3. i t (中二階建ての文字)
4. f h k l (二階建て文字)
5. g y j (地下一階建て文字)
6. b d p q (間違いやすい文字)

B <<文字の認識～読むこと～>>

文字を音として表す Phonics Activity～自然と文字を音で認識できるようになる～

- ・ 児童自身が担当したアルファベット文字とイラストを作成する。
- ・ 担当文字の音を使って単語を読む→全員でリピート（AからZまでリズムに乗って♪）
- ・ 慣れてきたらお互いにカードを交換し、音を教え合う。



上記のAとBが身に付いたら…

C <<文字と単語の認識>>

- ・ 音声十分に慣れ親しんだ語を書き写す。
- ・ 視覚情報がある中、音声十分に慣れ親しんだ語を推測して読んだり、書き写したりする。

*決して、子供が自分で文を作りだして書いたり、初出文を読んだりすることではないことに十分留意する。

(2) 外国語でのコミュニケーション能力を高めるために

大切にすべきことは…

その授業、その活動の中のどこに「外国語としての思考」が存在するのか

を意識した授業づくりを積み重ねることである。

(活動実践)

①How many クイズをしよう

- ・ 1～20の中でランダムに配られたカードを受け取る。
- ・ お散歩交流時、学んだ単語（フルーツ、筆記用具）を加えて、“How many ---s?”と尋ね合う。
- ・ 交流後、お互いのカードを交換する。



この交流のどこに思考が？

→ **1**のカードをもっている子に対して、「あれっ、これってs付けて言うのだったかな？」

子供たちはペアで自然と学び合うことができる。もちろん全体で確認するために、good model の子供二人のやり取りを見せて、全員で考えさせる。

②日常の学習ポイントの見直し

これまでの外国語の授業での私の意識…

言いたいことは、**表情60%+ジェスチャー30%**で大体伝えることができる。そしてそれを**100%**に近づけるために、残りの**10%**を**言葉で伝える**。その言葉は、大きな声ではなく、はっきりとした声で伝えること。

しかし、これだけでは会話に必然性は生まれないし、自然な会話にもつながらない。そこで大切にしなければいけないのが、以下の5つの約束である。

①何を聞かれているのか、気を付けて聞く～Listen carefully～

②繰り返す～Repeat～

③反応～Reaction～ “Good! / Nice! / Me, too. / Really? / I see.”

④同調～Echoing～ A “I like apples.” → B “You like apples.”

⑤疑問～Why?/Because---.～

日常から、このようなことを積み重ねていくと、児童同士で、自然と会話がつながるようになる。特に③反応については1対1のやり取りだけではなく、グループ、あるいは1対全体でも反応することにより、児童は自分の声が届いていると自覚し、「もっと伝えてみたい」「こんな伝え方もしてみたい」と意欲的に学ぶように変化してきた。